

2023 年度展示スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
第1展示室	3/4～6/4 重要文化財公開 「元屋敷陶器窯跡 出土品展」		6/10～9/3 開館44年収集の軌跡Ⅰ 「〇△□ 美濃桃山陶の形展」		9/9～12/3 開館44年収集の軌跡Ⅱ 「寄贈作品公開 現代の作り手たち」		12/9～3/3 開館44年収集の軌跡Ⅲ 「収藏品公開 江戸時代を中心に」		3/9～6/2 元屋敷陶器窯跡出土古器展 重要文化財2400点全部並べてみた！			
	3/4～6/4 史跡整備完了記念 「乙塚古墳とその時代」		6/10～9/3 収藏品展「窯道具の使い方」		9/9～12/3 収藏品展「美濃桃山陶」		12/9～3/3 収藏品展「美濃桃山陶」		1/31～3/3 保存修理完了記念 崇禪寺伝来 墨跡公開			
第2展示室	3/4～6/4 史跡整備完了記念 「乙塚古墳とその時代」		6/10～9/3 収藏品展「窯道具の使い方」		9/9～12/3 収藏品展「美濃桃山陶」		12/9～3/3 収藏品展「美濃桃山陶」		1/31～3/3 保存修理完了記念 崇禪寺伝来 墨跡公開			

※展示内容や期間が変更になる場合があります。

土岐市の暮らしを物語る 200 枚の写真 - 資料収集の成果報告 -



高山城跡辺りからみた土岐津町全景 昭和時代初頭橋の向こう側（現在のセラトピア付近）にはまだ建物がなかった



窯焼きの作業風景 現在の泉梅ノ木町・昭和15年頃焼きあがった煎茶碗を10碗ずつ藁で縛り、10束一括りにした

当館では、土岐市に暮らす人々がどのような生活を送ってきたのかを知る手がかりとして、昔の写真を集めています。地域の日常的な一コマを記録し、伝えていくことも博物館の大事な役割です。「広報とき」などで募集を呼びかけたところ、市民から約 200 枚の写真が集まりました。

まだまだ 随時募集中！

集めているのは、白黒写真に限りません。昭和から平成時代のまちの風景や暮らしの様子なども、移り行く時代の流れを知る手がかりになります。もうなくなってしまった風景、地域らしさを感じる写真に心当たりのある方は、いつでも当館にご連絡ください。

※写真はデータ化して館の活動に活用させていただきます。写真の提供については、原本をご寄付いただく、もしくは、お預かりのうえデータ化後に原本をご返却という方法があります。

コレクション データベース公開

インターネット上で、重要文化財の元屋敷窯出土品 2,431 点をはじめとする当館の収藏品を検索してご覧いただけるコレクションデータベースを公開しました。当館ホームページまたは下記よりご覧ください。



土岐市文化財情報 美濃陶磁歴史館だより vol.14 2023 年 4 月号

発行日：2023 年 3 月 31 日

編集・発行：土岐市文化振興事業団（土岐市美濃陶磁歴史館）

〒509-5142 岐阜県土岐市泉町久尻 1263 TEL (0572) 55-1245

土岐市文化振興事業団では、土岐市教育委員会から美濃陶磁歴史館の運営と埋蔵文化財調査を受託しています。

美濃陶磁歴史館 WEB サイト



SNS 更新中！

土岐市文化財情報 vol.14 2023 年 4 月号

美濃陶磁歴史館だより

展示や講座、発掘調査の成果、文化財関係事業のお知らせ



編集部文房：幸と豊

史跡 乙塚古墳と段尻巻古墳の保存整備完了



乙塚古墳 上：整備完了後 下：石室発掘調査の様子

【遺跡見学と展示解説】 ※要入館料
窯跡の日 4/30（日）14 時～（元屋敷窯見学と重文公開展）
古墳の日 5/14（日）14 時～（乙塚・段尻巻古墳見学と乙塚古墳展）

記念展 開催中！



須恵器 鳥紐蓋 乙塚古墳

土岐市泉町にある乙塚古墳と段尻巻古墳は、飛鳥時代（7 世紀前半）に造られた古墳です。両古墳は、ヤマト王権による東美濃地方の支配の様子を考える上でとても重要な遺跡であることから昭和 13（1938）年 12 月 14 日に国指定史跡となりました。

土岐市では、乙塚古墳と段尻巻古墳を東美濃地域のみならず日本の宝として未来に向けて守っていくために令和元（2019）年度より史跡整備事業を進めてきており、その整備が令和 5 年 3 月で完了し、4 月より一般に見学いただけるようになりました。

現在、整備事業完了を記念した企画展「乙塚古墳とその時代」を開催しています。本展では両古墳だけでなく、周辺の遺跡からの出土品や発掘調査の写真なども交えながら、乙塚古墳とその時代についてわかりやすくご紹介しています。



土師器 長頸壺 段尻巻古墳

東濃地方の他の古墳の出土品も展示しています

左から
首飾り 大鳥 1 号墳
瑞浪市教育委員会蔵
金環 専行寺 1 号墳
恵那市教育委員会蔵
銀環 津島古墳
勾玉 南山 3 号墳
瑞浪市教育委員会蔵

重要文化財公開
元屋敷 陶器窯跡出土品展

YMO STOKI

2023 3.4(土) → 6.4(日)

土岐市美濃陶磁歴史館
TOBI CITY HISTORICAL MUSEUM OF MIRO CERAMICS

遺跡はロマンだ！
土岐市が誇る二つの国史跡

乙塚古墳とその時代

史跡整備完了記念

新しい博物館をつくる基本計画が完成しました！

美濃陶磁歴史館の老朽化に伴い、土岐市に新しい博物館を整備するための計画、「文化財保存活用拠点（仮称）基本計画」が完成しました。今後、この計画に基づき、新博物館の設計、建設を進めていく予定です。ここでは基本計画の概要をお知らせします。

※新博物館内の室名や活動名は仮称です。

どこにできるの？

場所は、現在の歴史館周辺です。近隣に2つの国史跡「元屋敷陶器窯跡」と「乙塚古墳・段尻巻古墳」があり、JR土岐市駅やインターチェンジからのアクセスもよく、立地に恵まれた場所です。

どんなことをするところ？

文化資源の調査研究と収集保存

地域の文化資源の調査研究を研究機関や市民などと連携して行い、収集した文化資源を将来にわたり保管するための収蔵庫を整備します。資源をデジタル化して保存・活用できる環境も整備します。

テーマは、「美濃焼」と「土岐市の歴史・文化」

①「美濃焼のランドマーク」としての博物館

美濃焼について知りたい、学びたい人たちにとっての道しるべとなる博物館をめざします。美濃焼産地回遊につながる情報発信も強化し、産地全体の活性化へ寄与します。

②「土岐市の歴史・文化」を知り、ふるさとへの愛着を育む博物館

土岐市の歴史・文化を築いた人々のストーリーを紡ぎ、子どもたちのふるさと学習などへ活かします。市民とともに文化資源を掘り起し、保存・活用することにより、未来に継承します。

③多様なつながりやまちのにぎわいを生む博物館

地域の多様な人や団体とつながって活動することで、まちの活性化やにぎわい創出をはじめとする、地域課題の解決に寄与することをめざします。

そして、市民や街とつながる博物館

教育普及とボランティア

小中学生向けの教育プログラム、高大生の実習の受け入れなどによって、ふるさと教育を実践します。教育普及や展示、調査研究などの活動を支える市民ボランティア「ときはくサポーターズ」を養成し、ともに活動します。

つながりの場—ときはく広場

エントランス「ときはく広場」を、交流やにぎわいを生み出す場として整備します。ここでは、美濃焼に関する図書や情報を集めたライブラリースペース「みのやき commons」も設置します。

重要文化財の美濃桃山陶の陶片を入口として、土岐市の未来へとつながるように…

Interview 基本計画検討委員会委員長 伊藤嘉章さん

—元屋敷窯の重文資料のすごさは全国区なんです—

—土岐市での子ども時代の思い出は？

泉小学校へ通う途中、やきものが板に載せられて干してあったり、友達の家遊びに行くと工場だったり、当たり前のようにやきもの世界でした。夏の祇園祭りで、町内ごとにやきもので菊人形のような飾り付けを作っていて、それを見て歩くのが楽しみでした。当時の土岐川は陶磁器工場からの排水で真っ白で、盆と正月だけ川が澄むので、わざわざ見に行っていました。

—名古屋大学で考古学を専攻されますね。

2年の秋に専門が決まって、初めて考古学研究室に行った時、土岐市出身だと言ったら「おまえは美濃焼をやることになる」と言われて、後から、そこには檜崎彰一先生がいらっしゃって、窯業考古学の先進地だということを知りました。—開館当初の美濃陶磁歴史館に関わりがおりだとか？

大学2年、昭和53年12月から隠居西窯（泉町）の発掘調査に参加しました。その後、大学院の入試に落ちて、行くところなかったら来いと言われていた歴史館に「押しかけ学芸員」で1年間雇っ

てもらいました。美濃陶磁歴史館初代学芸員です。大学院のときには高根古窯の発掘調査をして、報告書作成のために歴史館に居続けました。—歴史館44年の活動をどのようにご覧になりますか？

開館当時、やきもの研究が全国的に盛んな時代でした。そんな中、歴史館は桃山を中心とした美濃窯の研究センターとしての役割を果たしたと思います。毎年、特別展で桃山時代の美濃窯の研究成果を積み重ね、消費地と全国規模での関わりを持ったのは、どこにも負けない成果でした。一方の課題は、生産地として美濃窯は大きな世界なので、土岐市にしばられず、もっと市域を越えてやった方がよかったこと。もう一つ、郷土の歴史をあまり扱ってこなかったことで、市民にとって館の存在感が希薄だったことです。歴史館が持っている元屋敷窯の重文資料のすごさは全国区なんですよね。それを売り出していくことができるのは、他にない強みです。一方で、地域にとって今まで欠けていた部分も大事にしないといけない。今後は、両方を追いかけるこ

とに価値があると思います。

—今後の新博物館について

地域のいろいろな立場の人たちと、様々なシーンでうまく協働することで、おもしろいこと、もっとすごいことができると思います。土岐市の人が当たり前のように館を知っていて、友達が訪ねてきたら必ず連れていきたいと思うところになればよいですね。たとえば、桃山のやきものというのは、やきものが単なる機能を越えた力を一番強く持った時代です。器は、ただ入れることができればそれでOKなんです。そこにいろいろな付加価値が加わってきて、桃山時代にそれが一番大きくなる。紙コップでお茶を飲むのと、湯呑、それもどんな湯呑でお茶を飲むかで味わいや気分が変わる。そういう豊かさの一番すごいところが桃山の世界にあって、それを知ることによって、現代の自分たちの生活も豊かにできるということを知ることが必要で、新博物館の役割として、大事な鍵になってくると思います。



伊藤 嘉章（いとうよしあき）

昭和32（1957）年、土岐市に生まれる。名古屋大学大学院（考古学）修了後、岐阜市歴史博物館学芸員を経て東京国立博物館勤務。京都国立博物館副館長、九州国立博物館副館長を歴任。現在、愛知県陶磁美術館総長、町田市立博物館館長。

土岐市美濃陶磁歴史館 44年のあゆみ



開館告知ポスター



開館当初の美濃陶磁歴史館



当時の元屋敷窯の様子。館より徒歩5分

昭和54（1979）年7月25日

土岐市美濃陶磁歴史館、土岐市泉町久尻の文化会館隣りに開館
開館記念特別展「名陶里がえり」開催

平成2（1990）年2～3月

開館10周年記念特別展「洛中出土の美濃桃山陶」開催
以後、毎年、生産地と消費地とを結ぶ桃山陶の特別展を開催する

平成3（1991）年2月16日

土岐市ふるさと創成推進事業で織部を題材にした番組『バサラの器』を制作、CBCで放映される。市出身の田中邦衛らが出演、館内でも撮影が行われる

平成5（1993）年

（財）美濃陶祖古陶器保存会が解散し、元屋敷窯跡一帯の土地と出土品が土岐市へ寄付される
元屋敷窯跡の発掘調査開始（～平成13年まで6次にわたる）

平成15（2003）年

史跡元屋敷陶器窯跡（元屋敷窯跡）の保存整備工事が完了。周辺一帯を「織部の里公園」として整備公開

平成25（2013）年

館収蔵の元屋敷窯の出土品2,431点（土岐市および多治見工業高校所蔵）が重要文化財に指定される

平成28（2016）年4月

土岐市教育委員会「ふるさと発見体験事業」による市内全小学校8校各1学年の見学受け入れを開始

令和2（2020）年2月29日

NHK大河ドラマ『麒麟がくる』放映記念特別展「光秀の源流 土岐明智氏と妻木氏」開幕（～臨時休館を経て9/13まで）

令和2（2020）年4月4日～5月25日

コロナ感染症流行拡大のため休館。「おうちミュージアム」としてSNSで毎日情報発信

令和3（2021）年8月27日～9月30日

コロナ感染症流行拡大のため2度目の休館
インターネット上にバーチャルミュージアムの公開開始

令和4（2022）年3月

歴史館建て替えに向けた「文化財保存活用拠点（仮称）基本構想」完成

令和5（2023）年3月

土岐市に新しい博物館をつくるための「文化財保存活用拠点（仮称）基本計画」完成



元屋敷窯出土陶片



令和2年特別展ポスター